

MSM を対象とした HIV/STIs 即日検査相談の実施及び innovative な検査手法の開発

研究分担者 井戸田一朗 (しらかば診療所)
研究協力者 星野 慎二 (特定非営利活動法人 SHIP)
立川 夏夫 (横浜市立市民病院 感染症内科)
相楽 裕子 (東京都保健医療公社豊島病院感染症内科)
吉村 幸浩 (横浜市立市民病院 感染症内科)
渋谷 寧 (横浜市立みなと赤十字病院 感染症科)
宮島真希子、李 広烈 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科)
沢田 貴志 (港町診療所)
佐野 貴子、近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)

研究要旨

MSM (men who have sex with men)に限定した HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。

昨年度に引続き、2020 年 4 月から 2021 年 2 月まで毎月 1 回実施の予定であったが、緊急事態宣言の発令により会場である「かながわ県民センター」が閉鎖されたことで 4 回の検査が中止となった。実施回数は 7 回で、述べ 91 名が受検し、陽性者数は、HIV 抗体 (確認検査で確認) 2 名 (2.2%)、梅毒 TP 抗体 11 名 (12.1%)、HBs 抗原 1 名 (1.1%) であった。受検者の背景は、MSM が 100%、神奈川県内居住者が 63.7% を占め、最多年齢層は 35-39 歳 20.9% であった。SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 48.4% であった。

また、当検査では検査日の 1 週間前からインターネットによる予約受付を行っているが、毎回、予約開始から 1 日で定員に達していることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約 7 割を占めているが、こうしたことが起こる背景としては、MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響し、HIV 感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘され

ている。

また、MSM の中には過去に HIV 検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染する背景として、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが考えられる。行動変容を起こしてもらうためには検査時のカウンセリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内で MSM 向けコミュニティセンターの運営で実績のある特定非営利活動

法人 SHIP の協力を得て、MSM 向けの自発的 HIV/STIs 即日検査相談（HIV 抗体、梅毒 TP 抗体、HBs 抗原）を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV 感染率の推移を把握する。

B.研究方法

前年度に引き続き4月から2月まで毎月1回実施の予定であったが、今年度は緊急事態宣言の発令により会場である「かながわ県民センター」が閉鎖されたことにより4回の検査が中止となった。

2月までに実施できた回数は計7回で、定員15名の即日検査を実施した。

検査日の1週間前からインターネットによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV 検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、看護師等による検査前の相談と採血を実施。

その後、臨床検査技師等による検査を施行後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV 抗体検査にはダイナスクリーン[®]HIV-1・2を、梅毒検査にはダイナスクリーン[®]TP 抗体を、B型肝炎検査にはダイナスクリーン[®]HBsAgを用いた。

ダイナスクリーン[®]HIV-1・2 が陽性だった場合は、Western Blot 法による確認検査を神奈川県衛生研究所にて追加して実施し、検査相談実施1週後に確認検査結果を医師が SHIP の事務所で受検者に告知した。

（倫理面への配慮）

MSM 限定の HIV/STIs 検査については、2012年に慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認されている。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のた

めアンケートの集計については数値化することにより、個人を特定できないよう配慮している

C.研究結果

前年度に引き続き2020年4月から2021年2月までに計7回の検査を実施した。7回のうち予約人数は105名で、実際の受検者数は91名だった。（図1）

① 月別検査予約数と受検者数の推移

予約はインターネットで、過去に当施設で検査を受けた事がある人は2週間前から、それ以外の人は1週間前から開始しているが、毎回、予約開始から1日で予約が一杯になっている。予約システムは定員に達した時点で、受付を停止するため、予約できなかった人数をカウントすることができないが、検査を希望しなら予約できなかった人はいると思われる。

7回の述べ予約数105名で、実際の受検者数は91名で、そのうちIDカードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は44名（48.4%）だった。2016年度の24.8%より23.6%増加している。（図2）

② 受検者背景

受検者91名のうち、過去にHIV検査を受けたことがある人は83名（91.2%）で、初めてHIV検査を受けた人は8名（8.8%）だった。（図3）

過去にHIV検査を受けたことがある83名に前回の受検した施設を尋ねたところ46名（55.4%）が当検査であった。また、保健所で受けた人が18名（21.7%）、イベント検査8名（9.6%）、南新宿検査所が5名（6.0%）、病院が3名（3.6%）だった。（図4）

年齢別の最多は35-39歳代19名（16.5%）であり第2位は20-24歳代16名（17.6%）だった。（図5）

居住地構成では、横浜市が40名（44.0%）と最多で、東京都22名（24.2%）、神奈川県域（横浜・川崎以外）が14名（15.4%）、千葉6名（6.6%）、川崎市4名（4.4%）、埼玉3名（3.3%）と、県外からの利用者が36.3%を占めていた。（図6）

受検動機は、性的接触による心配が 42 名 (46.2%)、念のためが 45 名 (49.5%)、症状が出たが 1 名 (1.1%)、その他 1 名 (1.1%) だった。(図 7)

③ 気になる性的接触について

受検動機で「性的接触」と回答した 42 名に対して性行動のアンケート調査を行ったところ初めての相手が 27 名 (64.3%)、いつもの相手が 12 名 (28.6%)、出張ホストが 1 名 (2.4%) であった。また、そのときのコンドームの使用状況では、オーラルセックス時にコンドームを使わなかった 40 名 (95.2%) アナルセックス (ウケ) のときにコンドームを使わなかった 13 名 (31.0%)、アナルセックス (タチ) のときにコンドームを使わなかった 15 名 (35.7%) だった。(図 8)

④ 当検査場を選んだ理由 (有効回答 89 名)

当検査場を選んだ理由の調査 (複数回答) では、「直ぐに結果が分かるから」73 名 (82.0%)、「梅毒・B 型肝炎も受けられるから」69 名 (77.5%)、「ゲイ専用なので」39 名 (43.8%)、「場所が近いから」31 名 (34.8%)、「曜日と時間帯が受けやすい」30 名 (33.7%) だった。(図 9)

⑤ 満足度調査 (有効回答 89 名)

事後アンケートにおいて、「役に立つ知識が得られた」と答えた人は 78 名 (87.6%) で、「知人・友人にこの検査をすすめてほしいと思いますか」の質問で、「すすめる」50 名 (56.2%)、「話してみたい」20 名 (22.5%) だった。(図 10)

⑥ HIV/STIs 検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン^Bによる HIV 抗体 (後に確認検査で陽性と確認) 2 名 (2.2%)、梅毒 TP 抗体 11 名 (12.1%)、HBs 抗原 1 名 (1.1%) だった。(図 1)

HIV 陽性には 1 週間後に確認検査の結果説明を実施しているが、1 名は来室されなかった。しかし、この受検者は当検査を受検する前日に別の検査事業での検査を受けており、その事業

の確認検査の告知が当検査の告知よりも先に行われたため来室が不要であったと考えられる。また、他の 1 名には医療機関を紹介したが、医療機関からの受診報告書が届いていない。

D. 考察

SHIP が提供する検査相談を過去に 2 回以上受けたことある人が全体の約 3 割を占めていた。また、事後アンケートにおいて、87.6% の受検者が役に立つ情報が得られたと答え、約 8 割が SHIP の検査を知人に「すすめてほしい」「話してみたい」と答えていることから、利用者の満足度は高く、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆された。

その一方で、予約開始から 1 日で定員に達していることから、更なるニーズに応えるには定員の増加、または検査回数増加が必要とされる。しかし、SHIP は専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は通常は SHIP の事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる恒久的な検査施設を探すことが今後の課題とされる。

E. 結論

なし

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

井戸田 一朗：臨床医として効果的な HIV 感染拡大抑制を考える。ランチョンセミナー 11. 第 32 回日本エイズ学会学術大会・総会. 2018 年 12 月 4 日 大阪.

H. 知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

図1 月別受験者数と検査結果

月	予約数 (人)	受験者数 (人)	リピーター (人)	HIV(+)	TPHA(+)	HBsAg(+)
4月	(緊急事態宣言により中止)					
5月	(緊急事態宣言により中止)					
6月	15	10	3	0	0	0
7月	15	12	4	1	1	0
8月	15	15	5	0	5	0
9月	15	14	11	0	2	0
10月	15	12	5	0	2	0
11月	15	14	9	0	0	1
12月	15	14	7	1	1	0
1月	(緊急事態宣言により中止)					
2月	(緊急事態宣言により中止)					
合計	105	91	44 (48.4%)	2 (2.2%)	11 (12.1%)	1 (1.1%)

* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。 * 定員は各回15人。

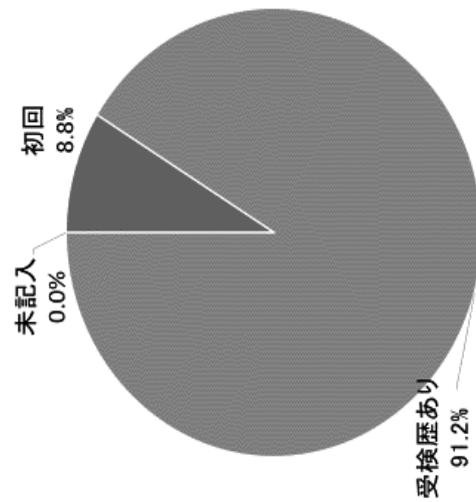
図2 リピーターの年次推移、月別推移

(1) リピーターの推移(2016年度~2020年度)

月	回数	予約数 (人)	受験者数 (人)	リピーター数 (人)	(%)
2016年度	12	183	153	38	(24.8%)
2017年度	10	159	144	54	(37.5%)
2018年度	11	165	135	59	(43.7%)
2019年度	11	165	139	71	(51.1%)
2020年度 (2月まで)	7	105	91	44	(48.4%)
計	51	777	662	266	(40.2%)

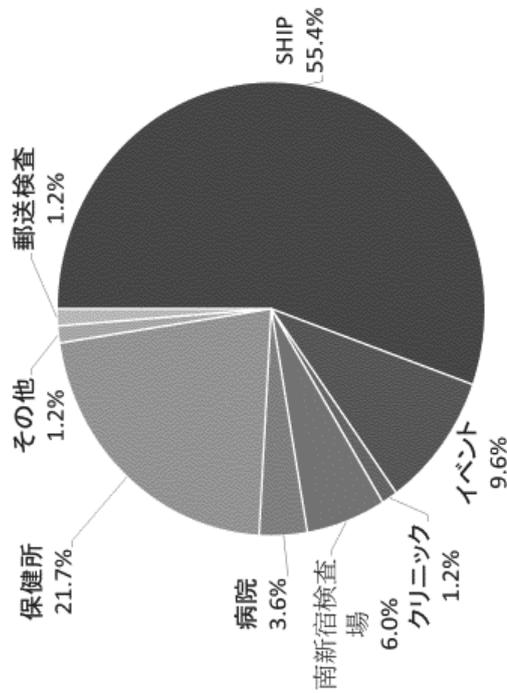
* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。

図3 HIV受検歴



N=91

図4 前回の受検施設 (受験歴有り83人)



N=83

図5 年齢別構成

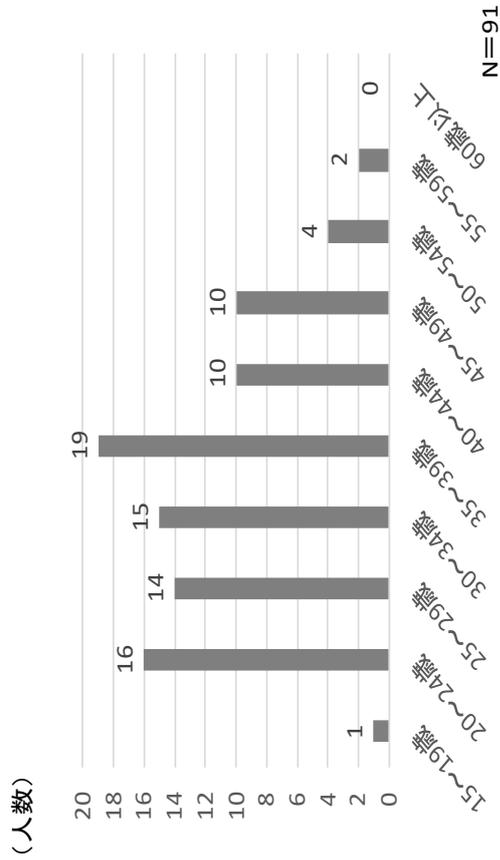


図6 居住地構成

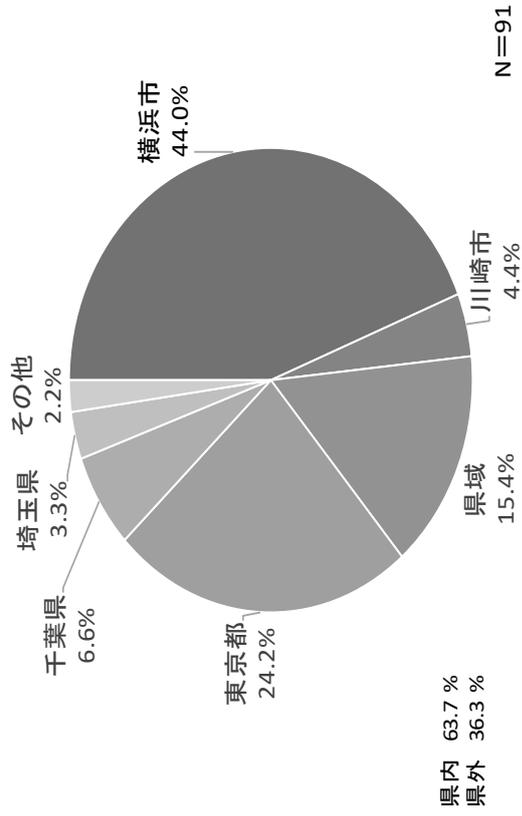


図7 受検動機

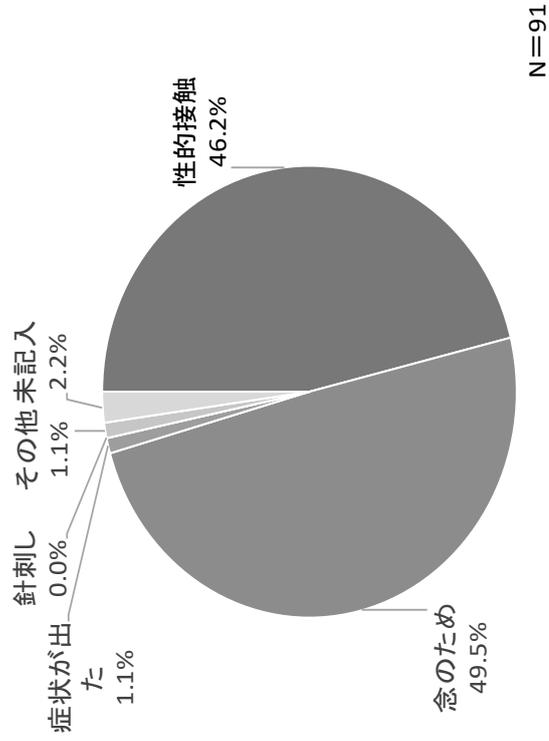


図8 気になる性的接触の相手との関係とコンドーム利用状況 (受検動機: 性的接触 48名)



図9 当検査を選んだ理由（複数回答）

当検査場を選んだ理由	人数	(%)
選んだ理由		
直ぐに結果が分かるから	73	82.0%
梅毒・B型肝炎も受けられる	69	77.5%
ゲイ専用なので	39	43.8%
場所が近いから	31	34.8%
曜日と時間帯が受けやすい	30	33.7%
前に受けたから	30	33.7%
他の検査場が分からない	1	1.1%
WEB予約ができるから	0	0.0%

(事後アンケート回答者数 89人)

図10 満足度調査

項目	人数	(%)
得られた	78	87.6%
得られなかった	0	0.0%
(空白)	11	12.4%

(1) 役に立つ知識を得られましたか？
(事後アンケート回答者数 89人)

項目	人数	(%)
すすめる	50	56.2%
話してみたい	20	22.5%
わからない	11	12.4%
すでに受けている	4	4.5%
話す気はない	2	2.2%
(空白)	2	2.2%

(2) 知人・友達にこのSTD検査をすすめてほしいと思いますか？
(事後アンケート回答者数 89人)